

【ATC フィロソフィ②】

こんにちは、アークテックコム株式会社で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。



今月は弊社のフィロソフィの紹介と応援メッセージをお送りします。

弊社のフィロソフィの続きです。

感謝の気持ちを持つ

【社内に人の和がないと、お客様に喜んでいただけるものはありません。なぜなら製品にはそれをつくる人の心が反映されているからです。ところが「オレが、オレが」といった利己的な考え方では、社内に和をつくっていくことはできません。

私たちが今日あること、そして存分に働けることは、お客様や取引先はもちろん、職場の仲間や家族といった周囲の多くの人が支援して

ウェブサイト:

<https://arc-tec-com.com>

Tel : 050-6864-6201

Fax : 050-6864-6202

E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

感謝の気持ち

下さっているからです。決して自分たちだけでここまでこられたわけではありません。

このことを忘れず、常に周囲の人への感謝の気持ちを持ち、お互いに信じあえる仲間となって仕事を進めていくことが大切です。】

次に出てくる「6つの精進」は人格を高める方法の説明ですが、そこでも、すばらしい人生を送るためのひとつの要素として「生きていることに感謝する」ということを挙げています。

では、「感謝をする」ということは、どういうことなのでしょう。まず、自分自身が他に対して^{へりくだ}謙らなければ、感謝という心は出てきません。厳しい環境の中でも何とか会社を経営

していけるのは従業員の協力があったることだし、お客様から注文がいただけるからでもあるのです。そのようなことを含めてすべて、まわりの人のおかげで今日の自分はある、という気持ちで^{へりくだ}謙り、感謝の気持ちを持たなければなりません。

逆に、不平不満、愚痴というものは、必ず人生を暗くし、不幸にします。その不平不満、愚痴の対極にあるものがこの感謝であり、感謝をすることで、人生はすばらしいものになっていくのです。それは、感謝の気持ちを持つことで自分の心が美しくなっていく、運命そのものが明るく開かれていくからです。感謝する心が幸運を呼び込むのです。

6つの精進

1. 誰にも負けない努力をする。

生き抜くための努力をすることです。辛い努力をするには最強の敵である己に勝たないといけません。例えば、人の運命はその人が過去世で作った業が因縁になり発現すると言います。今生きているこの間に、良いことを強く継続して思うだけで運命を変えられると言います。このような努力をすることを言います。

2. 謙虚にして驕らず。

素直な心は進歩の親と言います。感謝の気持ちを忘れて傲岸不遜になると、周囲の協力が得られなくなり、決して良い結果にはなりません。

3. 反省のある毎日を送る。

今生きている間に、人間として正しいことを考え実行したかどうかを、ほんの些細な、ふとした思いまでもチェックしましょう。そうすることで運命を少しずつ変えられます。

4. 生きていることに感

謝する。

「誰にも負けない努力」と対です。人はその人の過去世で作った業で運命が決まります。その線上で生きることになります。例えば、誰にも負けない努力で、心を高めることを続けることで、因果応報の法則で運命を変えられるのです。

5. 善行、利他行を積む。

「積善の家には余慶あり」と言われます。それは、1.~4.をコツコツ行うからです。

6. 感性的な悩みをしない。

感性で悩むのは私心で悩むことです。私心を抑え、宇宙や自然の摂理に調和するには、常に明るく、朗らかに、積極的に、夢と希望を抱いて進むことです。

常に明るく

【因果応報の法則です。心を常に明るくしましょう。そうすることで明るい世界が導かれます。

どんな逆境にあっても、どんなに辛くても、常に明るい気持ちで理想を掲げ、

希望を持ち続けながら一生懸命努力を重ねていきましょう。人生はすばらしく、希望に満ちています。常に「私にはすばらしい人生が開かれている」と思い続けることが大切です。決して不平不満を言ったり、暗くうっとうしい気持ちを持ったり、ましてや人を恨んだり、憎んだり、妬んだりしてはいけません。そういう思いを持つこと自体が人生を暗くするからです。非常に単純なことですが、自分の未来に希望を抱いて明るく積極的に行動していくことが、仕事や人生をより良くするための第一条件なのです。】

不思議なことですが、人生がうまくいっている人は必ず明るい心を持っていて、非常に積極的です。心根が暗く、不平不満ばかりをこぼしているようでは、決してすばらしい人生を歩くことはできません。もちろん、誰にも負けない努力をするという「根性」は必要です。その上で、自分の未来、自

分の人生はきっとすばらしい幸運に恵まれているはずだと常に信じる必要があるのです。

けれども、自分の未来は幸運に満ちている、自分にはすばらしい人生が待っていると思いなさいと言われても、この先、何が起こるかもわからないのに、そんなおめでたいことが思えるか、と考える方があるかもしれません。しかし、そうではないのです。誰にでも明るい人生が開かれているはずなのです。まずそのことを信じ、誰にも負けられないような努力を重ねていけば、必ず素晴らしい未来が待っています。

要は信じるか信じないかの問題です。自分の人生は素晴らしく明るい信じて、困難、苦勞、苦難にめげず、未来を描いていく。厳しい現実の中でつい負けそうになる自分を励ましながら、明るく振る舞っていく。そのような姿勢こそが、人生を開いていくのです。

※2024年12月号に続きます。

応援メッセージです。

ぼんがいちによ
梵我一如

人として正しいこと即ち原理原則に「他人の悪口は言わない」というのがあります。難しく言えば、公平・公正・誠実・正義・博愛・謙虚という考え方から考えると、人に不快な思いをさせない為にも守らないといけません。

自分が幸せになるためにも、他人の悪口は決して言わない。「悪口を言う」ことが、自分に跳ね返って来ます。

「悪口を言う」という思考と、そのエネルギーが、自分を包み込み、自分を不幸に招き入れることになります。

「他人の悪口を言わない」という考えと姿勢が、あなたを幸福に少しずつ導きます。そうすると不思議に、「他人の悪口を言わない」という考えと姿勢を持つ人が周りに集まって来ます。更に信頼を受け、尊敬されるようになります。そ

れほど、他人の悪口を言わない人は少なく貴重だということなのです。

我々は宇宙全体と一体で他人も自分も一緒という「ぼんがいちによ梵我一如」の考え方からすると、一体のものを否定する意味は無いことになります。

そうすると色々な角度から考え、「他人の悪口は言わない」というのは正しいが、でも悪口を言ってしまう自分がいることを認め、それも受け入れ、少しずつ正していく努力をすることがより大切なのかなと思います。

豊原 信